



出水期を前に日野川堰の操作説明会を行いました

日野川河川事務所
平成29年6月6日(火)

平成29年6月5日(月)日野川河川事務所内の職員9名を対象に、日野川堰の操作説明会を行いました。この説明会は、主に若手職員や当事務所に新しく赴任してきた職員を対象にして行ったもので、堰の構造や操作方法等について理解を深め、いざという時に、複数の職員が対応出来るようにする目的があります。

日野川堰について

■説明会の様子(フロア室)



日野川堰の役割

日野川と法勝寺川の水をそれぞれの取水口から取り込み、米川用水を通り弓浜半島へ農業用水を安定的に供給すると共に、米子市内を流れる旧加茂川の浄化用水の確保に役立っています。

日野川堰とは

日野川堰は、ナイロン織布と水密性を保つクロロプレン系ゴムで構成された厚さ5.5mmの円筒状のもので、普段はゴム袋を風船のように膨らませて水をせき止め、洪水時には空気を抜いて底につぶして洪水を流す構造となっています。

位 置	鳥取県米子市古豊千地先 (日野川4k+045m)
形 式	可動堰(ゴム引布製起伏堰)
全 長	290.2m
可動部分の長さ	210.0m
主ゲートの高さ	2.60m
主ゲートの門数	5門
取 水 設 備	1箇所
魚 道	左右岸に一カ所ずつ

中央操作室について



■説明会の様子(中央操作室)

■説明会の様子(堰柱内)

(事務所前が堰位置ですが)中央操作室のモニターでも、川の様子をチェックできます!

(日野川河川事務所 1F)

フロア室

: ギュムを膨らませる

日野川堰柱内

: ギュムの空気を抜く

それぞれの施設内で操作可能ですが、基本的には中央操作室で遠隔(集中)操作します!

遠隔操作

中央操作室

(日野川河川事務所 2F)

日野川堰倒伏時動作施設